

# コロナ禍新たな活用探る

## 県教育研究会 活動報告も



NIE(教育に新聞を)実践指定校の小中学校教員らでつくる「県NIE教育研究会」の全体会が25日、福井市の県教育センターで開かれた。新型コロナウイルスの影響がある中で、新聞の積極的な活用や新たなNIEの取り組みなどを探った。例年4月の全体会が書面

開催となり、今回が初の顔合わせとなった。30人が参加した。会長を務める小浜二中の



あいさつする加福会長。25日、福井市の県教育センター

加福秀樹校長は「NIEは学びと生活、社会をつなぐ。コロナ禍の中で常識や形にとらわれずに、今だからこそできる活用法を探るチャンス」とあいさつした。

県NIE推進協議会の松友一雄会長は「オンライン授業をして、改めて対面の良さが見えた。教育では、人から学ぶことが大切」とした上で「新聞記事には地域での取り組みなど、人が前面に出てくる」とNIEの有用性を話した。参加者は小中に分かれて意見交換を行った。中学校

では休校期間中に病院などの記事を読んで、命がけで働いてくれる人たちに生徒が感謝のメッセージを書いたとの報告があった。小学校では、学習効果の高い取り組みや継続しやすい活動として、児童が記事を選び、自身と家族が感想を書く「ファミリーフォーカス」や、記事を使ったクイズ作りが挙げられた。11月に予定されている新聞活用に関する教員研修について運営の方法を協議した。

(大西崇弘)